趣味とサークル

色鮮やかなチョークアートの世界。

カラフルな作風に魅了されチョークアーティストに

チョークアーティスト
石丸智恵さん

黒いボードに専用の画材で色とりどりの絵や文字を描くチョークアート。石丸智恵さんは、2013年から地元敦賀でチョークアーティストとして活動しています。

石丸さんがチョークアートに出合ったのは2009年。県外のイベントでそのチョークアート教室を知り、鮮やかな手描きの作風に魅了。翌年から京都のチョークアート教室に通い、本格的にその技法を学びました。

当時、フリーランスでイラストやデザインの仕事をし、首都圏からの依頼も請け負っていた石丸さん。対面での打ち合わせが求められる機会が増えるにつれ、敦賀を離れずに活動できることはないかと模索するようになりました。

「そんなときに出合ったのがチョークアートです」と当時を振り返る石丸さん。「イラスト業界がデジタルに移行しているときだったので、私は逆にアナログに戻ろうと思ったんです」と、作家活動をスタートしました。

アメージングシリーズの第1作
「amazing TSURUGA」
90cm×90cmのボードに気比神宮や花換まつりなど敦賀を代表するモチーフを鮮やかな色彩で描いています。

デジタルとアナログを融合し作品をつくり上げる

チョークアートは、国によっていろいろなスタイルがありますが、石丸さんが手がけるチョークアートはオーストラリア発祥。オイルパステルという発色の良い画材を使い、鮮やかな色彩で描かれるのが特徴です。数カ月間をかけて描き上げた作品はスプレーでコーティング。手で触れても消えてしまうことはありません。

色を重ねて指でぼかし、グラデーションを作る。オーストラリア式チョークアートの技法の一つです。

ちなみに、学校で使われている黒板とチョークで描くスタイルは日本独自で発展したもの。オーストラリアでは棒状の画材をチョークと総称しており、オイルパステルで描いた作品もチョークアートと呼ばれているそうです。

石丸さんは事前に色や構図をパソコンでシミュレーション。作り込んだ下絵をもとに、黒いボードに直接オイルパステルで手描きしていきます。デジタルとアナログの巧みな融合が修正のきかない一発勝負のアートをつくり上げています。

地元を描くライフワーク作品アメージングシリーズ

石丸さんがライフワークとして手掛けている作品が『アメージングシリーズ』です。地元敦賀をはじめ、福井県内各地の観光名所や伝統行事等を描いた連作で、敦賀をテーマにした作品は2018年の福井国体でも披露され、脚光を浴びました。

「三重県の作家仲間と、作品で地元PRをしようと始めたのが作品づくりのきっかけです。『奥越』『若狭』『坂井』も構想は固まっていて、少しずつ制作を進めています」と、福井の魅力発信にも意欲的です。

チョークアーティストとして活動する傍ら、敦賀高校の美術部外部講師として部員の指導も行っています。

「学生たちには絵の技術だけでなく、自分が好きなことを好きなように表現し、チャンスがあれば世に踏み出すメンタルを育めれば」と石丸さん。その活動は絵を楽しむ人の育成にもつながっています。

「amazing TSURUGA Ⅱ」で描かれた敦賀まつりの山車。間近で見ると細部まで実に丁寧に描き込まれているのがわかります。

●この記事に関するお問い合わせ
石丸智恵さん
abc.sophia0706@gmail.com

発行所■日本原子力研究開発機構 敦賀事業本部＝〒914-8585 敦賀市木崎65号20番地
☎0770（23）3021 ホームページ https://www.jaea.go.jp/04/turuga/（2022年6月発行）